

## 第8回 分散・標準偏差・変異係数・ヒストグラムの作成

### 【本日の作業】

①使用するファイル（前回のつづき）

**主婦のエネルギー摂取量 bxn11xxx 氏名.xlsx**

②白紙のシートのB列に都会の主婦、F列に農村の主婦のデータを縦1列に並べる

さらにJ列とK列に都会と農村のデータ区間（1299, 1399, 1499・・・）を縦1列に並べる

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
番号	都会の主婦	偏差	偏差の2乗		農村の主婦	偏差	偏差の2乗		都会	農村
1	1695	-98.1	9632.4		1695	-235.2	55295.5		1299	1199
2	1569	-224.1	50241.0		1800	-130.2	16939.0		1399	1299
3	1729	-64.1	4114.6		1729	-201.2	40461.3		1499	1399
4	2216	422.9	178806.4		2300	369.9	136789.0		1599	1499
5	1854	60.9	3703.3		1854	-76.2	5798.8		1699	1599
	:				:					

③シートの上部を10行程度あけて、下表を作成する

	都会の主婦	農村の主婦
件数	200	200
平均 m	1793.1	1930.2
分散 v	54018.1	154960.3
標準偏差 s	232.4	393.6
変異係数 s/m	13.0%	20.4%
VAR 関数	54018.1	154960.3
STDEV 関数	232.4	393.6

この表から言えることは何か

- ・平均
- ・分散／標準偏差／変異係数

#### 計算式

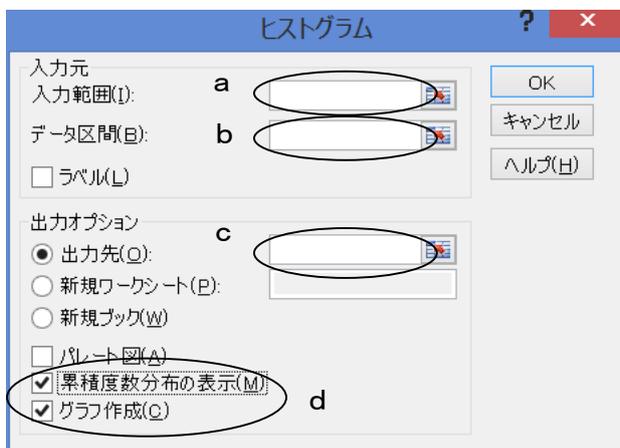
- ・偏差＝各データ－平均値 → **マイナスは赤字にする**（条件付き書式）
- ・分散 (variance)＝偏差の2乗の合計÷(件数－1)
- ・標準偏差 (standard deviation)＝分散の平方根（単位は kcal になる）
- ・変異係数＝標準偏差÷平均値（単位を消して%で評価する時に使う）

偏差値とは →  $50 + 10 \times (\text{各データ} - \text{平均値}) \div \text{標準偏差}$

#### Excel 関数

- ・平方根 =SQRT(平方根を求めたい値)
- ・分散 =VAR(200件のデータ)
- ・標準偏差 =STDEV(200件のデータ)

④メニューの「データ」－「データ分析」－「ヒストグラム」



#### a 入力範囲

全データの範囲（200件のデータ）

#### b データ区間

1299, 1399, 1499・・・の範囲

#### c 出力先

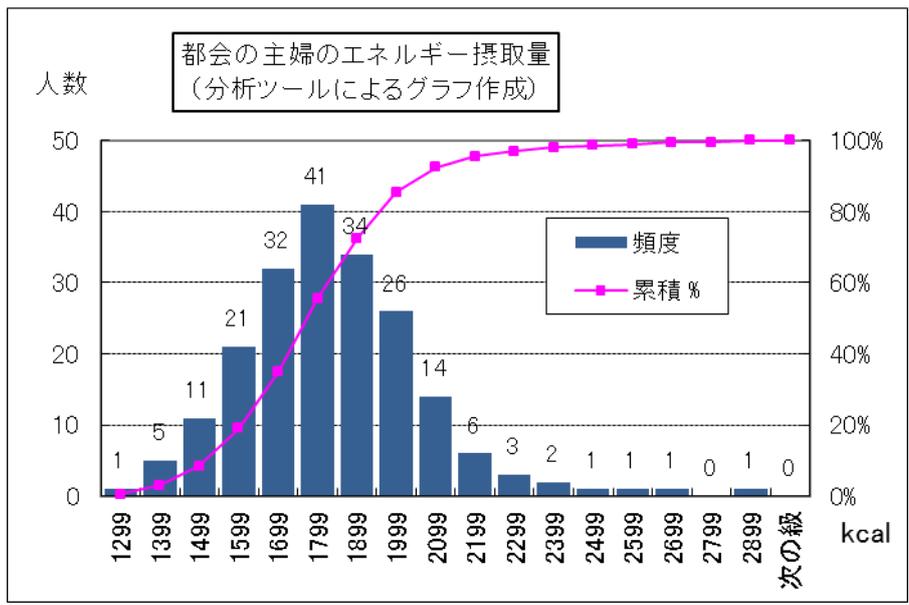
シートの空いている部分の**左上セル**

#### d グラフ作成

表示したい項目をチェックする

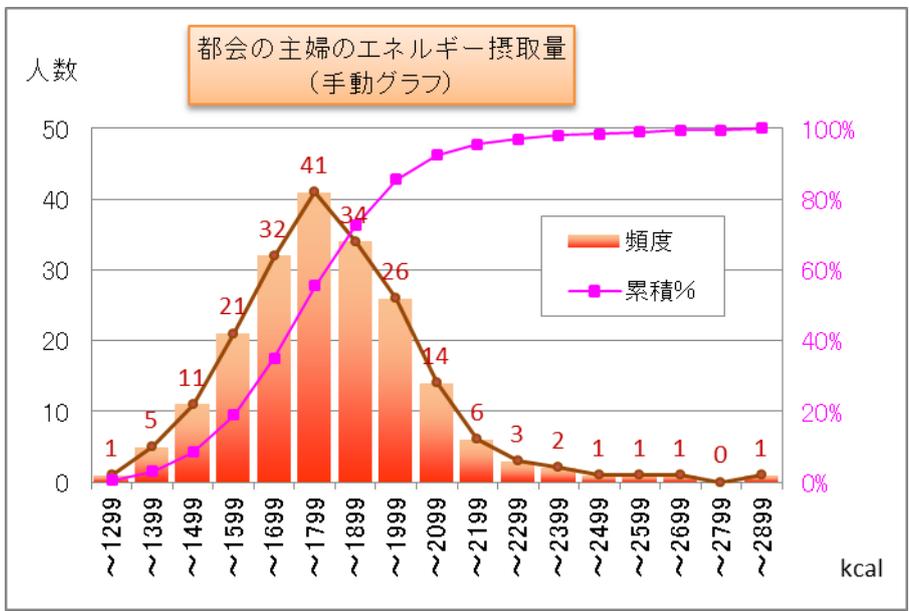
⑤グラフの作成・比較

「分析ツール」の「ヒストグラム」で作成



FREQUENCY 関数から手動で作成したグラフ

前回作成したグラフに「累積%」の折れ線を追加すること (上のグラフと同じになるように)



「農村の主婦」についても、同様に作成すること (全部で4つのグラフを作成する)

【下記ファイル名で保存して「CoursePower」で提出】

標準偏差とヒストグラム bxn11xxx 氏名.xlsx